

令和5年度第2回中城御殿跡地整備検討委員会

■主な意見と対応方針(敬称略)

No.	項目	意見要旨	対応方針
1	中城御殿の施設設置の目的	<ul style="list-style-type: none"> 中城御殿の位置付けを明確にすることが大事である。中城御殿はどういう人をターゲットにするのか。首里城来訪者をはじめ、地元の首里の人や那覇市民が多いと想定されるが、それを明確にしないと集客が難しくなるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 中城御殿における施設設置の目的等について再整理を進める。整備後の管理運営体制とも関連するため、合わせて検討する。
2		<ul style="list-style-type: none"> 尚家資料が常設展示されることに関して、中城御殿の役割としてきちんと位置付けたほうがよいのではないか。 	
3		<ul style="list-style-type: none"> 当初、中城御殿は首里城城郭内の収蔵品を移すことが主目的だったが、尚家資料が入ることで、施設の位置付けが違った重みを持つようになった。城郭内の展示収蔵の議論にも影響する。 	
4		<ul style="list-style-type: none"> 尚家資料が元あった中城御殿に戻ったという形になる。その辺りを強調しつつ、首里城についてもあわせて進めることを踏まえて、文章を練りなおしてほしい。 	
5	遺構保護を踏まえた床レベルの設定	<ul style="list-style-type: none"> 床レベルの設定については、御内原エリアの外観がかなり高くなり往時の姿からは変わってしまうが、展示収蔵機能をここに位置付けている以上、これ以上の建築的な解決は難しいだろうということで理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 床レベルについては、承認事項として、設計を進める。 →【資料2】P4～5参照
6	平面計画および利用動線計画	<ul style="list-style-type: none"> 近年整備された博物館は地下に電気・機械室を設けたものが多く、豪雨等で浸水したり、地下駐車場が水没したりという事例もあるので十分注意してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本施設では、電気・機械室は直接外からの出入りはないが、機械の搬入経路としてドライエリアがある。その部分に水が入らないよう屋根をかける。
7	中城御殿の防災・防火対策	<ul style="list-style-type: none"> 現在の計画では、健常者の動線は多いがバリアフリー動線が1箇所しかない。高齢者、障害者は他の方よりも避難に時間がかかるため不安がある。床レベルが上がったことで、完全に建物の外に出ることと敷地外に出ることの両方の障壁となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 正門以外に副門を含めた二方向のバリアフリー動線を検討した。 →【資料2】P6～9参照
8	中城御殿の防災・防火対策	<ul style="list-style-type: none"> 博物館では全館燻蒸を行うと思うが、中城御殿ではどう考えるか。全館燻蒸は、多くの人が入り出すところから虫の進入を防ぐ目的で行うものである。施設の密閉性が必要となり、また、燻蒸期間中は館を閉館するため、管理運営にも影響が出てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では御内原エリアの区画全体を燻蒸することと考えている。表御殿西側エリアを含めて燻蒸するかは、県内施設の事例等をふまえて今後も引き続き検討する。
9		<ul style="list-style-type: none"> 防犯面の検討はどのようにされているのか、次回ご説明いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯設備計画を検討した。 →【資料2】P16参照
10	外装材の仕様に関する方向性	<ul style="list-style-type: none"> 天然木と人工木は風合も違う。クリアすべきことも多いと思うが、天然木活用の案で進めていただければと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 外装材の仕様(天然木活用)については、承認事項として、設計を進める。 →【資料2】P7参照

No.	項目	意見要旨	対応方針
11	建物の屋根形状・高さの検討	<ul style="list-style-type: none"> 表御殿を撮影した古写真は多いが、御内原エリアは非常に少ない。再現性の根拠をどこに持つか考えると、複雑な屋根の重なり的美しさが中城御殿の特徴となる。上之御殿から見て美しい重なりがあること、また今回の増床で陸屋根ができたことで変な納まりが生じてしまうことから、軒を連続して見せることを優先した結果、高屋根案となったのが部会での検討経緯である。表御殿西側エリア(御配膳所)についても、高屋根でつなぐ例はあまりないが、平屋根にするのは景観上問題があり、全体的な良さを表現したいと考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物の屋根形状・高さについては、承認事項として、設計を進める。 今回資料では、外観イメージを提示する。→【資料2】P6参照
12		<ul style="list-style-type: none"> セントラル空調室外機の設置位置は、提案の位置でよいと思うが、できるだけ見えなくするよう、実際の施工の際に現場で細部調整をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> セントラル空調室外機の設置位置は提案位置とし、施工段階で細部調整をすることを工事への引継ぎ事項として留める。
13	将来増築部分について	<ul style="list-style-type: none"> 将来増築部分(表御殿東側エリア)は、当分の間何も空間となるが、その見せ方はどう考えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 表御殿東側エリアの往時の建物形状や間取りを踏まえ平面表示で対応する。→【資料2】P15参照
14	龍潭周辺の階段整備	<ul style="list-style-type: none"> 松崎広場は今後イベントなど様々な活用がなされると考える。そのとき、階段は直線的に広場に上がってくるのがよいのか、迂回させて脇から上がる形のほうがイベント時の通行等に干渉しないのか、今後検討してほしい。また手すり柵がつく場合も、景観配慮についてよく検討をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 世持橋から見たときに既存園路や松崎馬場広場が樹木によりさえぎられているため、令和6年に既存樹木を伐採後、松を植栽し、新規設置広場アクセス階段がどのように見えるのか確認の上、必要に応じて修正設計等を検討していきたい。
15	龍潭周辺のトイレ整備	<ul style="list-style-type: none"> 公園として考えるとトイレは必要だろうが、松崎馬場の一番目立つところにトイレがあるのはいかがか。利用上必要としても、歴史的風致とのすり合わせはどうあるべきか。 	<ul style="list-style-type: none"> 景観への配慮について引き続き検討する。首里杜まちづくり推進協議会にて、地域各団体等の意見も確認する。
16		<ul style="list-style-type: none"> 首里八景にも詠まれた風景という視点からみたときには、景観上影響が出ると思われる。 	→【資料3】P3参照
17		<ul style="list-style-type: none"> 植栽や景観をなるべく阻害しないようにということも含めて、検討していただきたい。 	
18	龍潭線の中城御殿前区間の整備について	<ul style="list-style-type: none"> 中城御殿前だけでなく龍潭側も同じ舗装にしたほうがよいのでは。将来的に世持橋を再現した場合、今の四角い石畳敷は世持橋に合わないと思うので、往時の雰囲気を出すためにも、龍潭側も中城側に合わせて石粉舗装にした方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 山川交差点から世持橋を經由して中城御殿石牆手前約10mの区間については既に石張り舗装が完成していることから、再現する世持橋周辺については石張り舗装のままとしたい。 同様の理由から龍潭側の歩道についてはこれまでどおり石張り舗装としたい。